

建築を楽しむ

石田 富男



「建築鑑賞」「建築ツアーリズム」「ユニークベニュー」など、建造物を鑑賞や観光の対象として楽しむ動きが広がっている。ここでは全国各地での動きとともに、愛知県において私も関わっている取り組みについて紹介したい。

イケフェス大阪

建物公開イベントとして大きな集客を挙げているのが、イケフェス大阪（正式名称・生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪）だ。「生き生き」とその魅力を物語り続けている建築というコンセプトのもと、歴史的建築物から最近のビルまで多様性に富んでいる。公開日にはガイドブックを手にした人々がまちを行き交い、建物の前に行列を作っている。事前予約の必要なツアーの中には十倍以上の申込があるものもある。船場・中之島を中心に集積しており、公共交通が便利なのでアクセスしやすく、多くの建物見学が可能だ。

二〇一三年に大阪市が五十件の「生きた建築」を「大阪セレクトション」として選定。これを中心とした建築を一齐に公開する取組みとして始まり、二〇一四年、二〇一五年の二年間は大阪市主催で実績をつくり、その成果を踏まえて二〇一六年度以降は企業と有識者を中心に実行委員会を立ち上げてスポンサーを募り、運営が行われている。公開する側が見てもらふことをありがたく思い、参加者も熱心に見学している姿が印象的だ。

京都、神戸、東京への広がり

大阪の取り組みが波及した形で始まったのが二〇二二年の京都モダン建築祭だ。京都では昔から非公開文化財特別公開事業が行われており、普段は非公開の社寺などを見学する機会があったが、二〇二二年に京都市京セラ美術館開館一周年記念展として「モダン建築の京都」が開催され、そこで紹介された建物を実際に見てもらおうという企画だ。

翌年には神戸モダン建築祭、さらに本年五月には東京建築祭が初年度から大々的に開催され、多くの参加者を集めた。建築が観光目的として位置づけられるようになってきたといえるだろう。

あいちのたてもの博覧会

実は愛知県でもイケフェス大阪と同じ年に建物公開イベントが始まっている。愛知登文会主催によるもので、当初は「建物特別公開」と称していた。二〇一八年度から「あいちのたてもの博覧会（略称・あいたて博）」と名称変更、昨年度からは対象を登録有形文化財のみな



あいたて博での旧昭和塾堂の見学

らず、重要文化財や未指定まで広げて実施しており、私は事務局長を務めている。大阪などと比べると県内各地で開催していることもあり、相乗効果による集客力を発揮できず、知名度も低い。一方でほどよい参加人数で所有者や解説者との距離が近く色々な会話もできると喜ばれている。有名建築ではないけれど、歴史を積み重ねた、まちに溶け込んだ、ちよつと気になる建物を身近に感じるよい機会になればと考えている。昨年よりも規模を拡大して開催しようと準備を進めているところだ。一度足を運んでいただけたらと思う。

愛知県登録文化財魅力紹介冊子

愛知県内の登録有形文化財の魅力を伝えようと愛知登文会が発行しているのが「あいちのたてもの」シリーズの冊子だ。これまでに「ものづくり編」「まなびや編」「いのりのば編」「すまい編」「明治村編」「まちのシンボル編」という六冊を発行している。建築史家の村瀬良太氏によるポイントを絞ったわかりやすい紹介文と素敵なイラスト、さらにアマカメラマンの協力で撮影した魅力的な写真が好評だ。愛知登文会のWEBサイトからダウンロードできるとともに、愛知県内図書館でも閲覧できる。

この冊子をとりまわると書籍化しようという取組も進んでいる。実現に向けたクラウドファンディング（九〇十月予定）への支援もお願いしたい。